

# 「新宮下本町遺跡」から

## 浪漫ある未来を語る

旧丹鶴小学校跡地に発見された江戸時代の遺構「新宮城下町遺跡」では、更に中世以前の遺構が次々と発掘され、令和3年に「新宮下本町遺跡」と名称が変更されました。

現在丹鶴ホール前の敷地の下には地下式倉庫や川湊などの遺構が保存されていますが、出土した遺物と共に、新宮は鎌倉、室町期の太平洋岸の物流拠点として見直され、日本の中世史の研究に影響を与えています。またこれらの貴重な文化遺産は、速玉、阿須賀の古代と近世新宮城の時代との間の歴史をつなぐものとして、今後の新宮・熊野の観光に活かしていく事が期待されます。

今、コロナ禍の影響やIT技術の発展によりVR（バーチャルリアリティ・仮想現実）を利用した歴史文化の紹介が各地で行われつつあります。熊野ではこれに世界遺産熊野古道などの実体験を組み合わせるなど、新しい観光スタイルの開発も考えられます。改めてこの遺跡を見直しながら、未来の観光都市新宮のあり方を考えてみませんか。

### 丹鶴ホール 入場無料

令和4年7月3日（日）午後2時開演  
（開場 午後1時30分）

スライド説明

『画像でたどる新宮川湊の記憶』

中瀬古 友夫氏 熊野学研究会委員

講演

『新宮下本町遺跡の調査成果から新宮の歴史遺産活用を考える』  
～デジタルコンテンツの活用も含めて～

鋤柄 俊夫氏 同志社大学文化財保護研究センター嘱託研究員  
新宮城下町遺跡調査委員会委員

1958年長野県生まれ。元同志社大学教授で日本中世社会の考古学研究を専門とし、北海道から沖縄まで全国の中世遺跡の研究を進める。主な著書に『日本中世都市遺跡の見方・歩き方 - 「市」と「館」を手がかりに』（昭和堂）『中世京都の軌跡 - 道長と義満をつなぐ首都のかたち』（雄山閣）などがある。

当日は、新型コロナウイルス感染症対策のため「検温」「マスクの着用」「手指の消毒」をお願いします。  
体調のすぐれない方は、入場をお控えください。